

保育者の実践的指導力の育成・向上に関する研究（２）

—「遊び」から「片付け」に移行する場面の分析から—

○岩田幸子（梶山女学園大学 非常勤助手）

横井志保（一宮女子短期大学）

村岡眞澄（愛知教育大学）

渡辺桜（愛知教育大学 非常勤講師）

<研究目的>

発表者らはこれまで、保育者養成および新任・初任の保育者の実践的指導力向上ということについて、熟練した保育者から学ぶという方法を用いながら主に“身体性に関わる”視点から追求してきた。その結果、熟練者に共通してみられる身体の動きや所作の特徴がいくつか抽出された。これらは、直接的には保育における子ども達へのレスポンスとして集積されたものであるが、保育観や子どもへの心理的距離、また受容性や保育における見通しといった心身の全体に関わる要因とも密接に関連して生じたものであることが予測された。本研究の目的は、こうしたいくつかの予測を実際の保育の中で確かめ検証しながら、保育実践力育成・向上のキーポイントを追求することである。今回はこうした認識を基底にしながら、保育の中での「つながり」ということを取り上げて分析・考察したい。この考察の対象場面は、学生の教育実習に際してはいうまでもなく、新任・初任の保育者がかなり難しいこととして捉えている「片付け」の場面である。

<研究方法>

保育観察

- ① 観察期間：２００３年９月～１１月 この期間に４回の観察を行った。
- ② 観察対象：愛知県Ｃ市保育園・Ｎ市立幼稚園・大学附属幼稚園、３園の３～５歳児担当保育者６名
- ③ 観察場面：子どもが登園してから帰るまで。主に遊びの片付けから食事場面
- ④ 観察方法：異なる３園において保育を観察し、保育者と子どものやりとりを中心に記録する。

<結果と考察>

表は保育観察の後、観察者４人での話し合いによつ

て、共通して保育のキャリアが感じられた保育者、保育のキャリアがあまり感じられなかった保育者の、遊びから片付けに移行する場面の記録の一部分を抽出したものである。これらの記録からキャリアの感じられた保育者は子どもを受け止める目線と毅然とした目線（表：下線）の二つを上手に使い分け、適当な距離感を保ちつつ動いていることが感じられた。また、いろいろなところへ機敏に動きつつも一つ一つの遊びにしっかり関わっていることがわかる（表：点線）。

一方、あまりキャリアの感じられなかった保育者は、子どもの側に立った言葉かけではなく、保育者の側の都合で今しなければならぬことに関する言葉かけをしている。つまり、今とても楽しいという思いを保育者に伝えたい子どもの気持ちと片付けをしてほしいという保育者の気持ちにズレが起きている（表：波線）。子どもの気持ちを大事にして次の日につなげる言葉かけではなく、今子どもにしてほしいこと、やめてほしいことが先行してしまっているといえる。保育者の側の、遊びは遊び、片付けは片付けという一つ一つのことをきちんとしていこうという姿勢が強く現れている結果だと考えられる。観察記録から、子どもたちが遊びこんでいる時に、保育者も一緒になってその楽しさを共有することで遊びの満足感が得られ、その結果片付けも子ども達がスーッと納得して行えるということが推測される。保育者と子どもの活動におけるつながりが心のつながりとなり、遊びから片づけへのつながり、明日の遊びへのつながりへと続いていくのである。キャリアの感じられた保育者・感じられない保育者の違いは、保育観・発達観の違いなどによって生じられると思われるが、具体的にどのような保育観をもっているのか、何が異なるのかについては今後の課題としたい。

保育のキャリアが感じられた保育者		保育のキャリアが十分と感じられなかった保育者	
言葉かけ	動き・動作	言葉かけ	動き・動作
泥団子を作ってみせにきた子どもに「スゴイの作ってきたね！」 「～ちゃん、行ってくるからね」 保育室で <u>「ちょっとやりすぎだよね」</u> 「そろそろ本当のおやつを食べて休もう」 「お家が低くなってきて、Y君が見えるようになりました」	子どもがテーブルレコーダーに合わせて歌を歌っているのに合わせて、ダンスする。 寄ってきたC男の怪物ごっこに相手をする。 歌っている女の子たちのところに入り、一緒に踊る。 女児をおんぶする 女の子に引っ張られる 引っ張った女の子と園庭の方に行く 差し出す子どもの手にチューとする 子ども二人がじゃれついて、一人がかなり強く上に乗っかっているところに行く。二人を止める。 率先してブラフォーミングを片付ける 製作コーナーの所で1人づつ丁寧に関わりながら片付ける	(A男積み木で遊び始める。A男とあまり関わりがなかったS太も、積み木遊びに入って一緒に遊ぶ) 部屋で遊んでいる子ども達に 「お外行ってくるね。また戻ってくるから」 (A男、積み木遊びやめて製作コーナーで絵を描き始める。画用紙2枚横につなげて長いバスの絵を描いている) 保育室に戻ってきたTにバスの絵をみせながら「長いよ、大型バスだよ」Tの反応があまりないので、A男、隣にいるK介に「K君見て！大型バスに乗ってるよ」「いろんなところが見えるといいな」とハサミで絵を切りながら先生の方を見る。<u>「ハサミ元へ戻してね！」</u>A男、全部切った後ハサミをボタンと落とす 「お片付け」「閉店します」 子ども達口々に「いやだ」 A男、Tの言葉も聞こえない感じでつなげたバスに人が乗ってるように描く 積み木で遊んでいた子どもたちも皆、製作コーナーにくる <u>A男、絵をみせながら「こんな大きいのできたよ」</u> <u>「スピードアップだよ」</u> 子ども達ぜんぜん片付ける気配なし 「片付けどうなった？」 C郎「だったら絵に描いとく」 「C君、また作ればいいから」「また作れるから」 C郎、絵に描こうとするが難しくて描けずにいる 「C君片付けるよ」 C郎半分泣きながら、Tにくっつくようにして「描いてるったら！」 「また作れるから、今日はお片付けね」	製作コーナーに来て、子どもたちが作ったり描いたりしているのを見ている。 A男の絵をチラッとみて、いつもより帰る時間が早く急いで片付けをしないといけないという気持ちが先行しているのか、さりげない感じの対応。 あまり受け止める様子を示さないでいう C郎が、積み木でつくっていた自動車の道路をこわしたくないというのを振り切って、片付けようとする どうしていいかわからない風でC郎の体に手を置いて